

内閣府 孤独・孤立対策推進室 主催
「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム
2024(令和6)年度 第1回シンポジウム・第3部」
2024年11月6日(水)16時00分～17時40分

第3部・実践報告③ 民間と民間による連携・協働

社会福祉法人 大阪ボランティア協会

常務理事・事務局長 永井美佳

email:nagai@osakavol.org

facebook:mika.nagai.3557



Instagram:nagai_mika



X(旧Twitter):ngmkngmk



あなたが動く、社会が変わる。大阪ボランティア協会



① 1965年創立:

日本で最も歴史の長い
民間の市民活動推進機関

② 参加の力:

ボランティア103人、有給職員16人(内6人はボランティア兼任)
組織内チーム制で協働運営体制

③ ボランティアリズム:

「市民自治」と「変革の実行」と「市民の力」
にこだわる「市民参加オタク」!

数字で見
る実績
(2023
年度)



- 活動体験した人
3,043人
- 講座で学んだ人
1,945人
- 交流会・報告会
等に参加した人
285人



- ボランティアしたい相談
289人
- チャットボット相談
751件
- 応援求む相談
62人
- コーディネート一般相談
71件



- 災害支援ネットワー
クへの参加
2回で、
のべ63団体より
のべ107人
- 災害支援・防災を
テーマとした講師派遣
9件



- 包括的ボランティア
コーディネーションの
視点を生かして、
参加型運営を
実践・推進



- 市民社会をつくる
ためのネットワーキン
グに参画
全30種

孤独・孤立対
応のネットワー
クにも参画

ミッション・ビジョン・機能。大阪ボランティア協会

●ミッション:

より公正で多様性を認め合う**市民主体の社会をつくる**ために、
多彩な市民活動を支援するとともに、他セクターとも協働して、市民セクターの拡充をめざしています。

→目標①**市民自治**の確立 | →目標②創造的に社会を変えようとする人たちの支援と**変革の実行** | →目標③**市民の力**が発揮されるための支援

●ビジョン:

「ポスト50年」行動宣言:多様な主体による連携と市民参加の促進によって、社会問題解決のためのソーシャルイノベーションを起こします。これらを仕掛け、社会にうねりをつくり出す**コーディネーション機関のモデル**となります。

→機能①「場づくり」 | →機能②「参加の促進」 | →機能③「理論化」

→重点事業①「**災害支援・防災**」 | →**重点事業②「社会的孤立の抑制・解消」**

☑「災害時のスペシャルニーズ」支援事業

☑あらゆる人の参加を実現する「インクルーシブボランティア」のコーディネーション事業

☑長期療養の子どもと家族を応援したい人のための「はじめの一步」ハンドブックなど

☑『ボランティアリズム研究～市民セクターが挑む、社会的孤立の抑制・解消への道程 I・II・III』

●機能:市民活動総合支援センターとして

組織内に、「ボランティア・NPO・企業市民活動の推進」「情報出版・ボランティアリズム研究所」「災害支援」の3つの部門

1)ボランティアコーディネーション事業 | 2)市民力向上(市民学習・研修)事業 | 3)NPO運営支援・基盤整備事業 | 4)災害・復興支援、防災事業 | 5)企業市民活動推進事業 | 6)情報提供・出版・市民シンクタンク事業 | 7)国内外のネットワーク推進事業 など



ぜひ、
連携しま
しょう!



① NO VOUNTEER, NO LIFE.:

市民活動家の生きざまに衝撃を受け、この世界で生きることを決意

②: つながる実感、ひろがる世界:

目から鱗が落ちる 探求が止まらない 芽づる式世代、性別、属性、セクター、人種、文化、国境を越えて

③ コーディネーション力:

市民、ボランティア、NPO、企業、協同組合、行政、大学などあらゆる主体と主体をつないで創発を

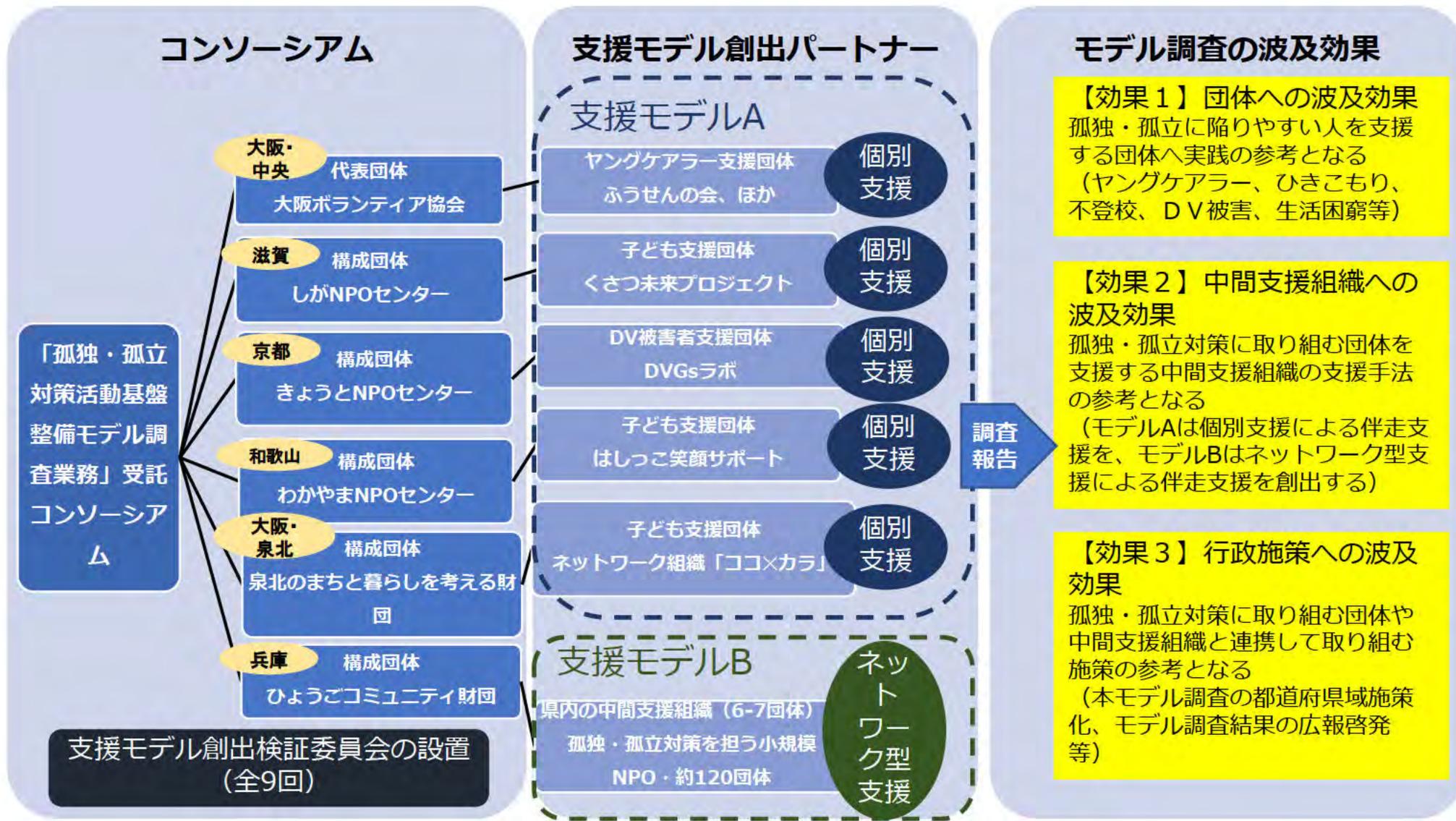
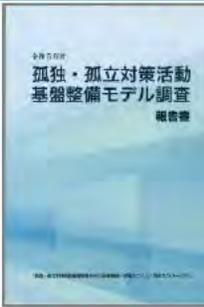


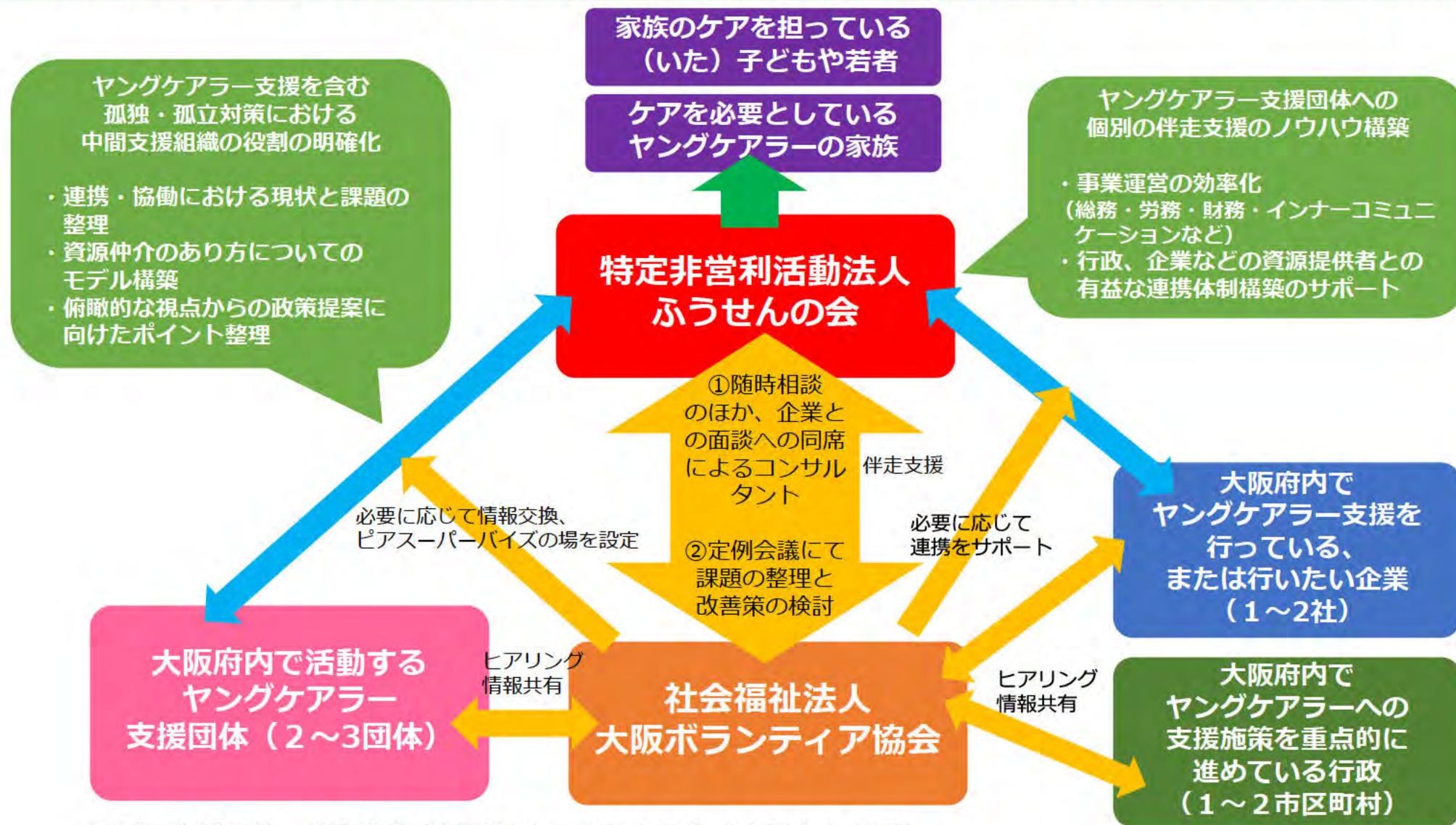
- 好きなことば「やりたいこと・やるべきことは、やれるときにすぐ、やれるだけする」「止まない雨はない、明けない夜はない」。
- 好きな食べもの「コナモン」。
- 好きなもの「かえるグッズ」。
- よく言われる人物評「浪花節的」。



民間と民間による連携・協働の実践と、
大切にしていること

「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査業務」実施体制と波及効果





モデル支援団体：特定非営利活動法人ふうせんの会（大阪市中心部）

家族のケアを担っている（いた）子ども・若者や、ヤングケアラーに関わる専門職が設立。2019年12月に任意団体として活動を始め、2022年2月にNPO法人格を取得した。ヤングケアラー・若者ケアラーが安心して交流できる場をつくり、彼らが夢をもって自分らしく生きていけるような社会を作るために、活動している。2022年度から行政の委託事業等で事業規模が急激に大きくなり、組織基盤の再構築が必要である。



②あるべき姿（どういふ状態を目指すのか）

- ・ヤングケアラー支援団体の経営基盤が整い、子どもたちに必要な支援が持続的に提供されている。
- ・ヤングケアラーとその家族が抱える課題を、ヤングケアラー支援団体だけで抱えるのではなく、その他専門的な支援団体や学校、行政等との連携によって支えるネットワークが構築されている。
- ・現行の施策終了後の必要性が認められ、継続的な行政施策が整備されている。

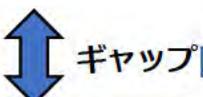
■この支援モデル構築で明らかにしたいこと

現在、国の施策としても重点項目となっているヤングケアラー支援について、支援団体の基盤強化に必要な経営スキルを明確化する。

また、現行の施策終了後、行政の支援施策や企業・助成団体の連携相談における「ネクストステージ」のあり方について、ポイントを整理し、継続的に必要な支援が行われる体制づくりにつなげる。

⑦事業終了後の取組み予定・ビジョン

- ・ヤングケアラー支援団体の支援モデル構築をベースに、大阪府内、近隣府県の個別支援を継続・普及させる。
- ・行政施策や企業・助成団体の連携相談の「ネクストステージ」に向けて、中間支援組織の立場を生かして具現化する。
- ・ヤングケアラー支援団体同士でネットワーク構築の機運が高まったタイミングで、中間支援の立場を生かしてネットワーク構築支援を具体化する。



①現状（何が問題か？）

- ・支援団体の経営基盤（財政基盤や人材のマネジメント・コーディネーションを含む）が脆弱で十分に体制が整っていない中で、行政の委託事業や補助事業、企業からの連携相談等が集中して多忙を極めている。そのようななか、中長期的な経営戦略を持っていない状況が続いている。
- ・同じ市区町村で活動する子ども・青少年支援団体間の相談連携体制は必ずしも十分ではない。子ども食堂の利用者にもいるかもしれない、潜在的なヤングケアラーの発見力向上や支援団体との連携協働が機能していない。

③原因・背景認識（企画提案時点）

- ・設立したてのヤングケアラー支援団体は、ヤングケアラー支援の専門性はあっても、団体経営のノウハウ（ファンドレイジング力・コーディネーション力等）のノウハウを十分に持っていない。
- ・同じ市区町村で活動する子ども・青少年支援団体や総合相談機関、専門職等と十分につながれていないため、ヤングケアラー当事者に情報が届いていない可能性が高い。
- ・企業等からの連携相談が、経営基盤の弱いヤングケアラー支援団体を窮地に追い込んでいる。

④解決策＝支援モデル構築（2023年6月～2024年2月）

- ・団体の経営基盤強化のための伴走支援（総務・労務・財務や事務の効率化のための提案、連携のコーディネーション、ボランティアマネジメント等のノウハウ共有など）
- ・大阪府内の総合相談機関（社協など）や子ども・青少年支援団体（子ども支援や困窮者支援）で活動する団体などと情報共有できる機会を提供し、日頃から連携できる顔の見える関係づくりを行う。
- ・ヤングケアラー支援に関わるNPOとの連携のあり方について、行政や企業など他セクターに向けて、今後の支援や連携のあり方を提言する。

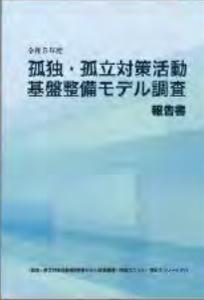
⑤アウトプット（2024年2月時点）

- ヤングケアラー支援団体への個別支援（1団体）
 - ・組織運営ヘルプデスクの随時対応
 - ・経営基盤強化の定例会議（月1回）
 - ・企業・行政等の連携相談のコンサル同席
- 個別ヒアリングによる情報交換（計7件程度）
 - ・ヤングケアラー支援団体（2-3団体）
 - ・ヤングケアラー支援策をもつ行政担当部局（府・市）
 - ・ヤングケアラー支援を希望する企業担当者（2-3社）
- 情報交換会の実施（1回程度）
 - ・必要に応じて、ヤングケアラー支援団体同士の情報交換

⑥アウトカム（2024年2月時点）

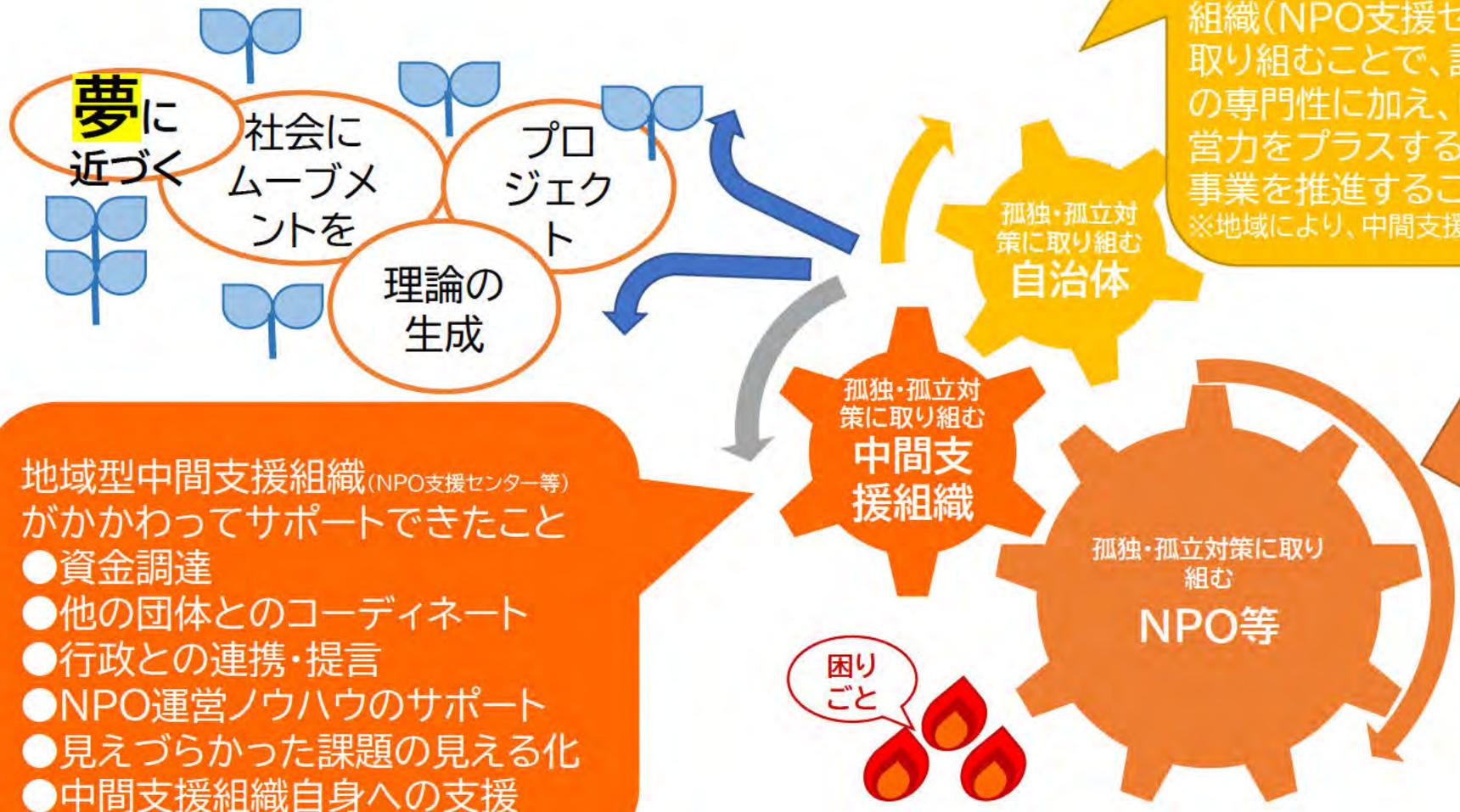
- ・支援団体のスタッフは組織運営のポイントを理解し、組織運営の効率化が図られている。
- ・支援団体が資源提供者に対し、団体が求めている支援について明確に言語化できるようになる。
- ・支援団体の経営基盤強化に有益なスキルが明確になり、中間支援組織としての支援モデルが創出できている。
- ・行政のヤングケアラー支援施策や企業・助成団体による連携相談の「ネクストステージ」のあり方についてポイントが明確化されている。





モデル調査でみえた、地域型中間支援組織の役割、成果や課題

●孤独・孤立対策には、「中間支援組織」と連携・協働した施策をお勧めしたい



地域型中間支援組織(NPO支援センター等)の存在価値

- NPO運営のノウハウや行政との連携実績があり、地域事情にも詳しい地域型中間支援組織(NPO支援センター等)が一緒になって取り組むことで、課題の現場に取り組むNPOの専門性に加え、中間支援組織が持つ組織運営力をプラスすることができ、より効果的に事業を推進することができた
- ※地域により、中間支援組織自身の力量アップも求められる

地域型中間支援組織(NPO支援センター等)がかかわってサポートできたこと

- 資金調達
- 他の団体とのコーディネート
- 行政との連携・提言
- NPO運営ノウハウのサポート
- 見えづらかった課題の見える化
- 中間支援組織自身への支援

<NPO等の現状>

- 地域特有の状況や課題を踏まえて活動を推進する必要がある、一律的な解決策を求めるのは難しい
- 目の前の課題への対応に精一杯になりがちで、継続・安定的に組織を運営するための組織基盤強化や、視野を広げるための他分野とのネットワークづくりに取り組めない団体も多い

誰一人取り残さない“いまどきの協働” 1対1から多対多へ

●進化する協働＝「マルチステークホルダーエンゲージメント」へ

- ・3者以上のステークホルダーが、対等な立場で参加・議論できる会議を通し、**単体もしくは2者間では解決の難しい課題解決のために**、合意形成などの意思疎通を図るプロセス。マルチステークホルダー・プロセス型という。

●多様な社会問題に対応する ＝「多様な担い手が責任を分かち合う

必要がある」（ダイバーシティ研究所・田村太郎氏）

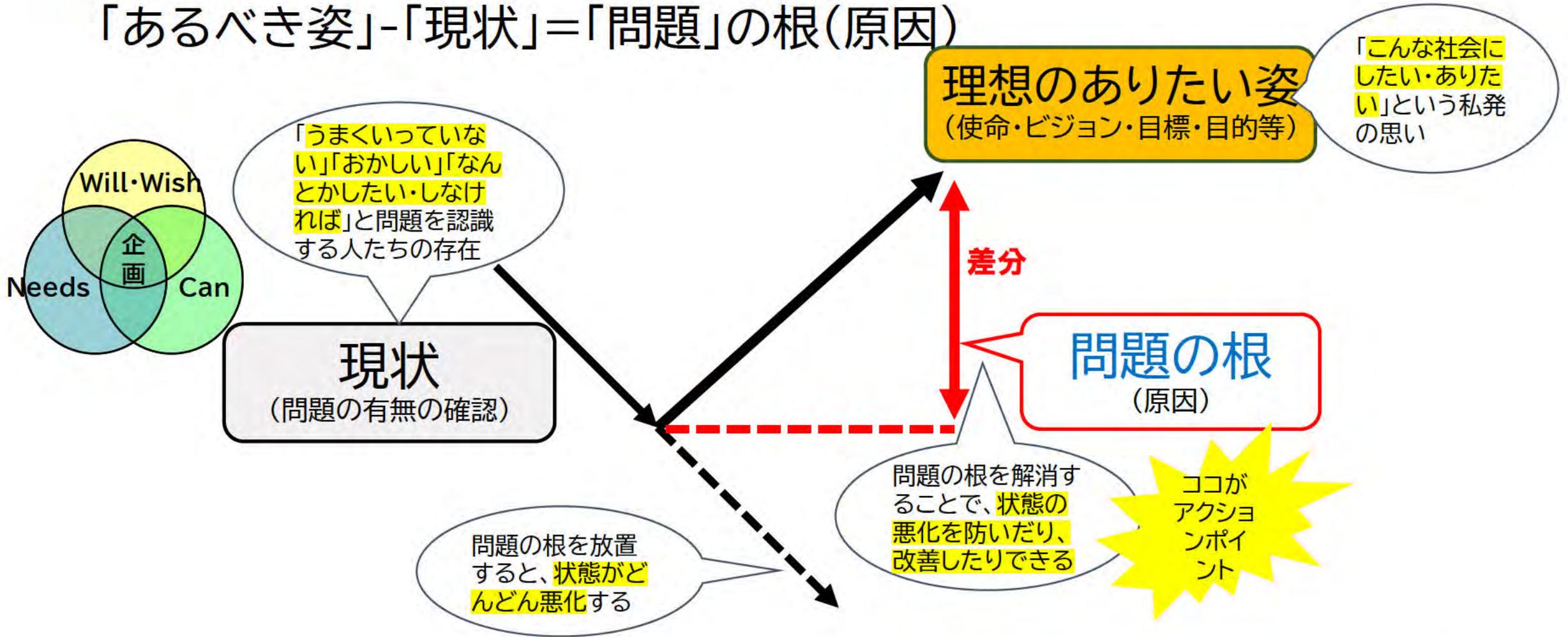
- ・1対1のパートナーシップではなく、多対多のエンゲージメントで責任を分かち合う。
- ・そのために、**「同じ現状認識」と「共通のビジョン」**を共有する**必要**がある。



構造化:「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)

●問題をあぶりだす計算式

「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)



設計:問題解決の基本手順とプロセスに市民参加を促す

問題解決の基本手順

- 1 問題の**明確化**
- 2 問題を起こしている原因の把握と**優先順位**(プライオリティー)付け
- 3 その原因への**対策の実施**と再発防止

「変だ」「なんとかしなければ」と問題を認識する人たちに参加を促す、場をつくる

市民の参加を促す

1人

自分ですぐに始められる!

10人

チームですぐに始められる!

100人でできること

複数のチームの連携・協働で、できることが増える!

こういうとき、中間支援組織の出番です!



1000人でできること

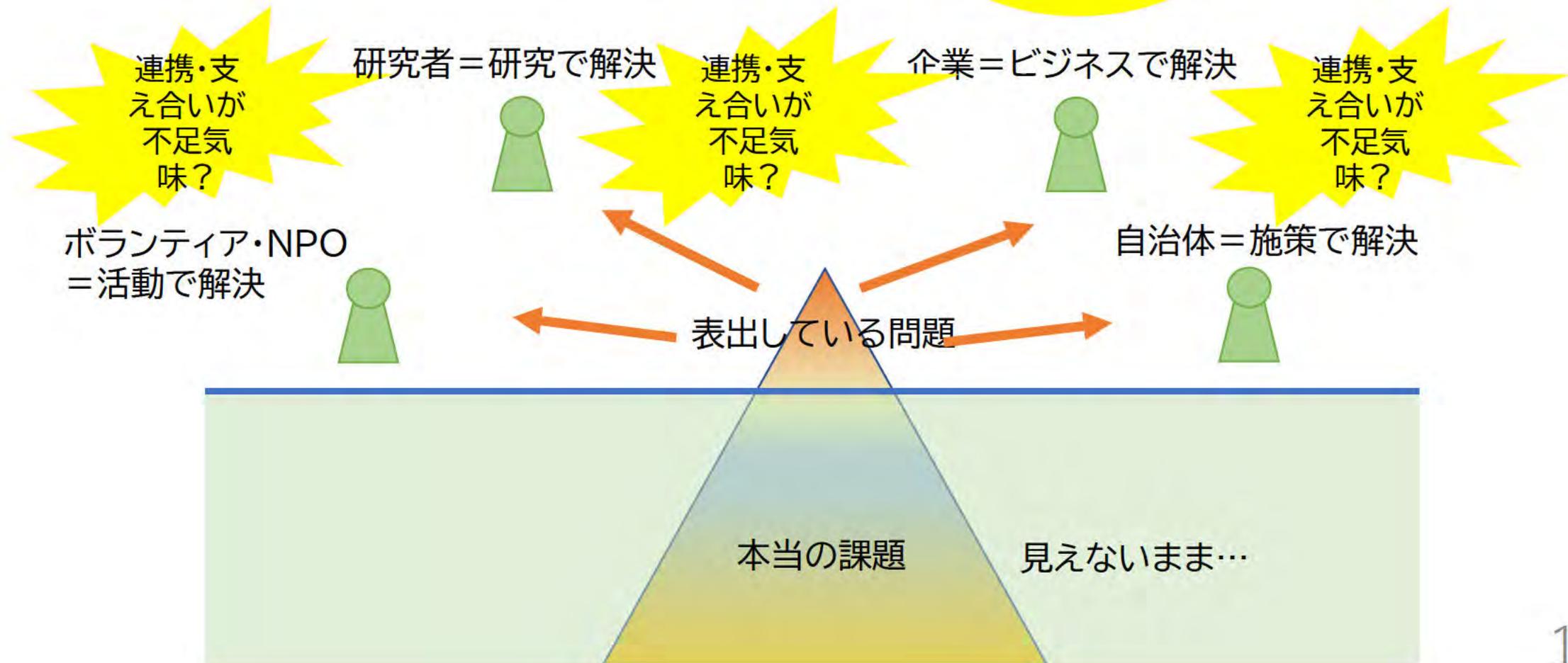
複数の組織間の連携・協働で、できることが増える!

これまでの課題解決アプローチ～共通のゴールがない

●それぞれの担い手が一方的に支援

(原型となる視点:ダイバーシティ研究所・田村太郎氏)

こういうとき、
中間支援組織
の出番です！



これからの課題解決アプローチ～共通のゴールをめざす

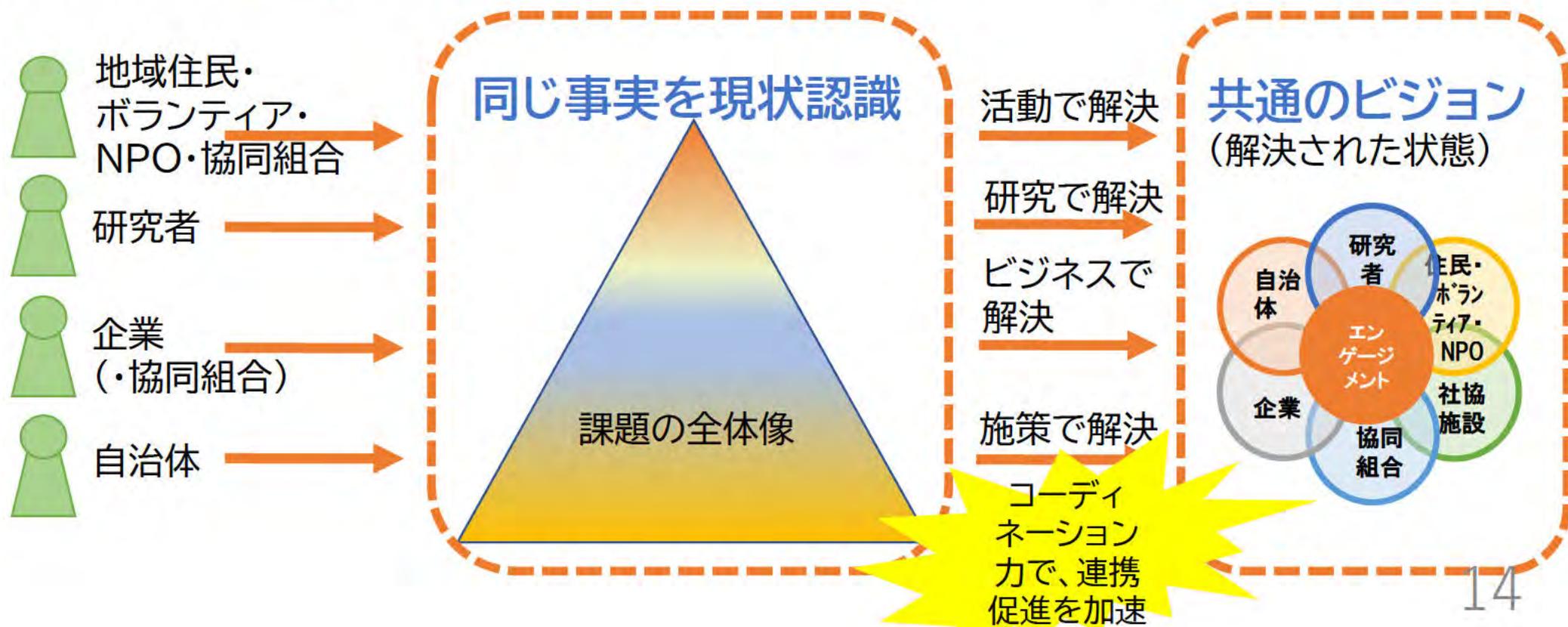
●同じ事実を元に共通のゴールをめざす

(原型となる視点:ダイバーシティ研究所・田村太郎氏)

多様な担い手が連携して社会問題を解決するには、

「**同じ現状認識**」と「**共通のビジョン**」を**共有**する必要がある

こういうとき、
中間支援組織
の出番です！





止まない雨はない 明けない夜はない
ご清聴、ありがとうございました。変革に向けて、ともに行動しましょう。



子育てのスタートを 孤立させない

2024年11月6日

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
理事長
奥山千鶴子

子育て家庭の孤独

- 子育てが辛いんじゃない。子どもたちはかわいい。でも不安や孤独で押しつぶされそうで、どうしようもない時がある。
- 頼れる人のいない土地。子どもにつきっきりの長く心細い一日。ろくに家事もこなせず、うつろに考え込む。自分の存在は一体何の価値があるのだろう。孤独感が高まるにつれ、自信を失っていった



追い詰められ、自信を失う

ひろば全協発行
「子育てひろば0123育ちの詩」から

24時間休みなしの育児。「この子は、自分を困らせるためにいるのでは？」こんな考えがよぎる自分に罪悪感を覚える。

知り合いもおらず、地理もわからない土地で子育てのスタートはとても辛かった。家の中で赤ちゃんを抱えひどく追い詰められていたと思う。

産休前は教師としてバリバリ働いていたのに、社会からの疎外感。息子はアトピー。それでも周囲に弱さを見せられずにいた。

息子はトラブルメーカー。「私の育て方のせいなのか」とひどく落ち込んだ。

地域子育て支援拠点事業

- ◎ 対象者 概ね就園前の乳幼児とその養育者
- ◎ 設置数 全国に、8, 0 0 0か所以上
- ◎ 場所 保育所等、公的施設、児童館、商業施設、一戸建て・空き家活用等
- ◎ 法的根拠 児童福祉法、子ども・子育て支援法

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場を提供し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業

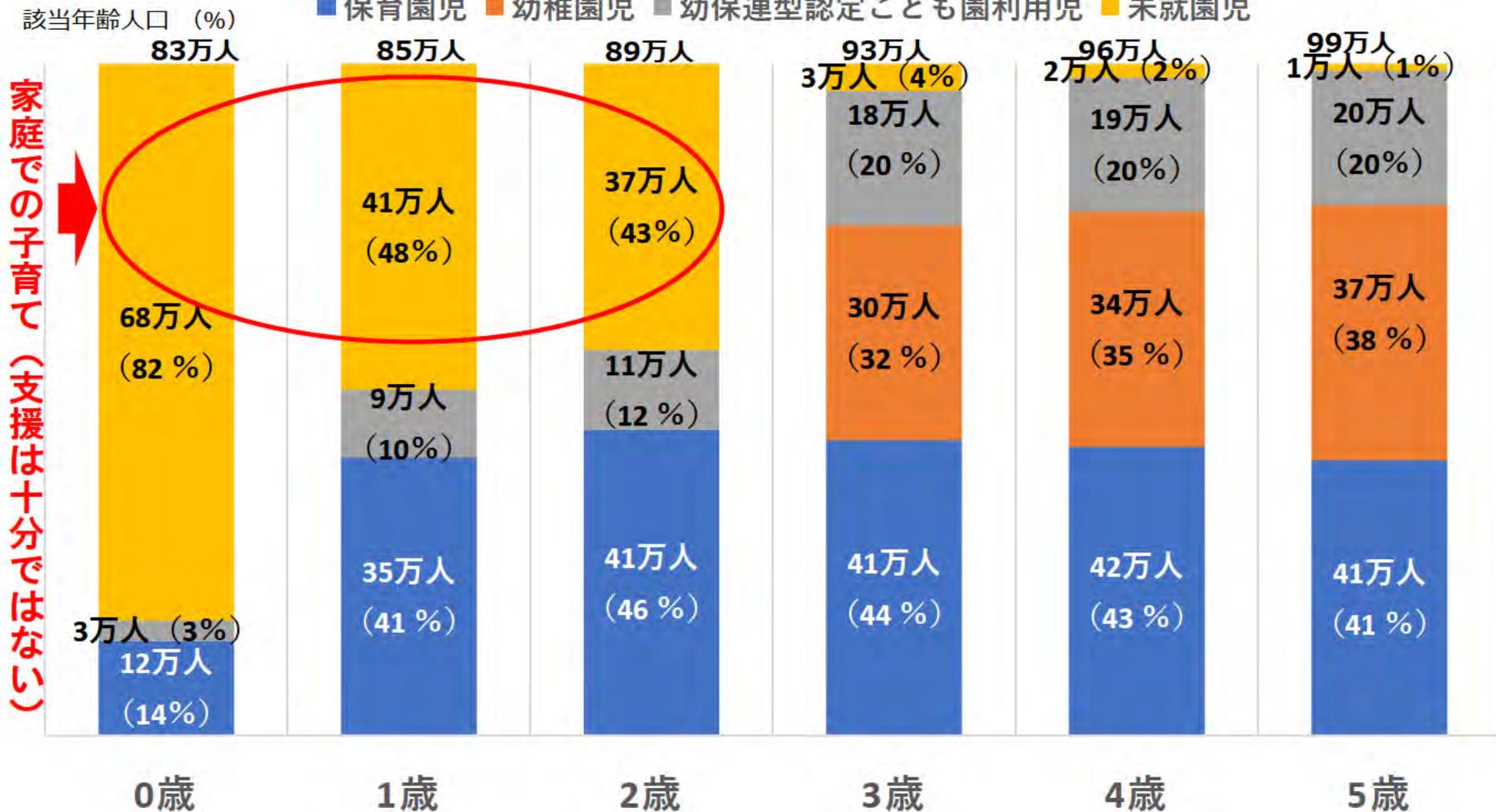


保育所、幼稚園等の年齢別利用者数及び割合

令和5年5月17日
第3回こども未来戦略会議
資料より作成

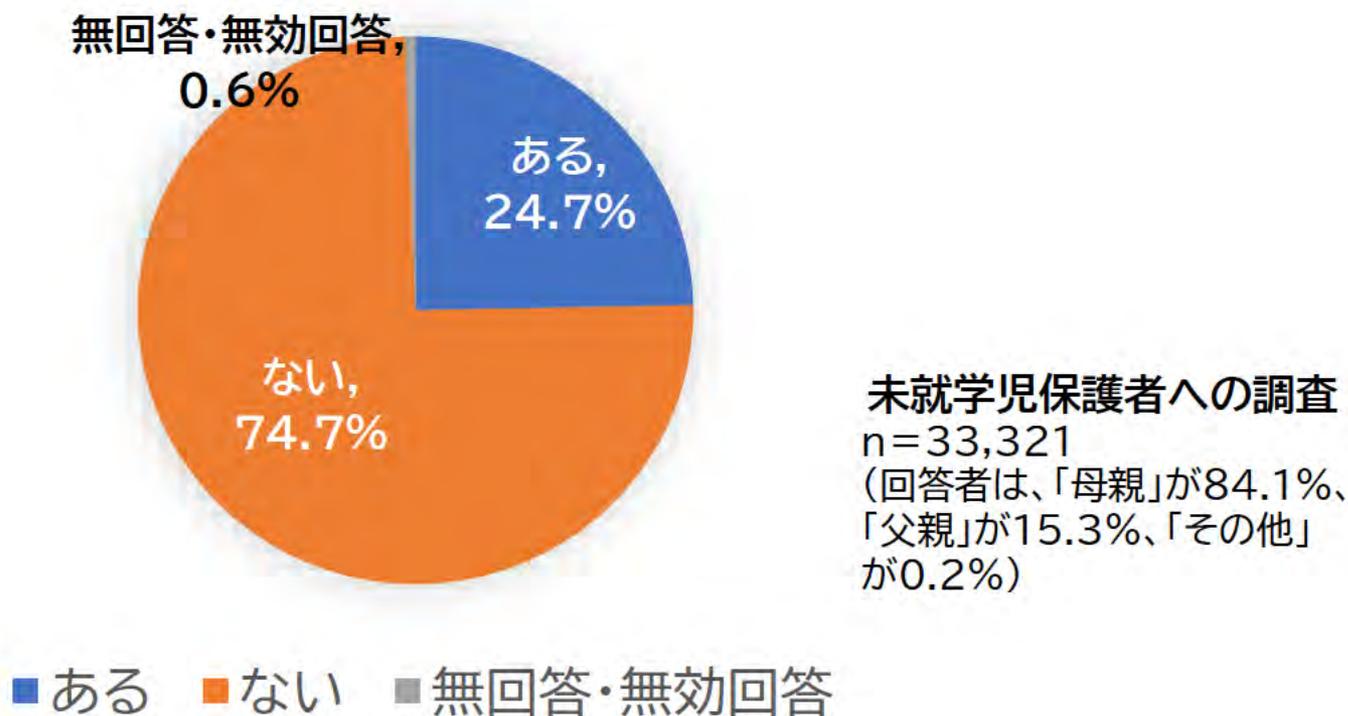
保育園と幼稚園の年齢別利用者数及び割合（令和3年度）

■ 保育園児 ■ 幼稚園児 ■ 幼保連型認定こども園利用児 ■ 未就園児



赤ちゃんの世話の経験

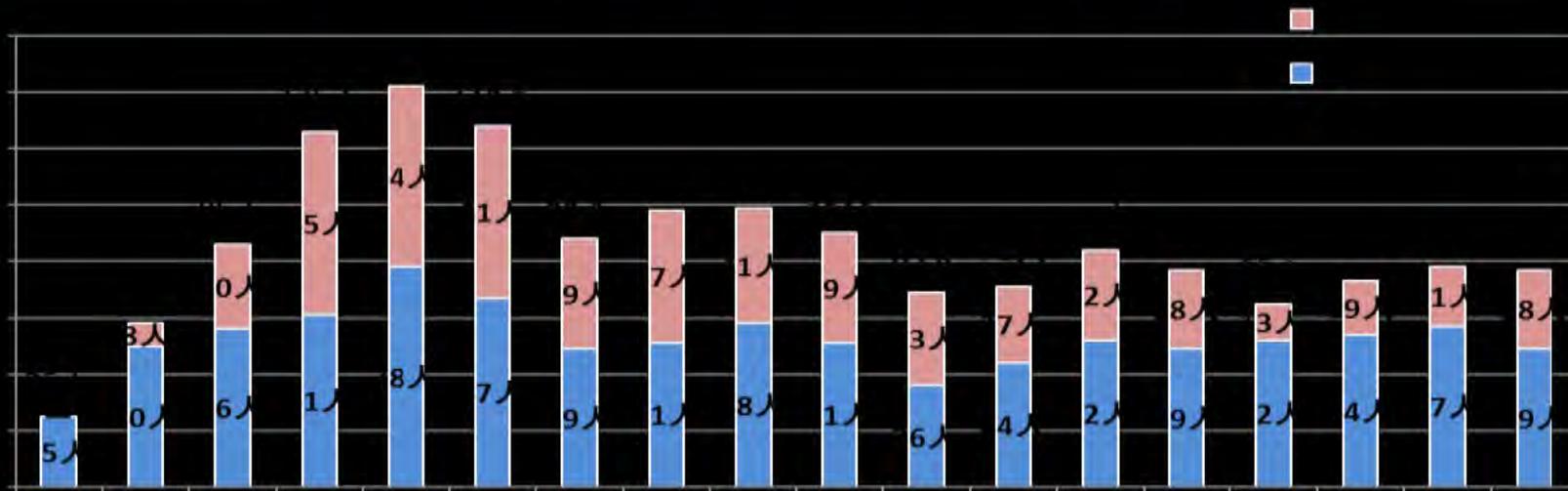
はじめてのお子さんが生まれる前に、赤ちゃんの世話をしたことがありますか。



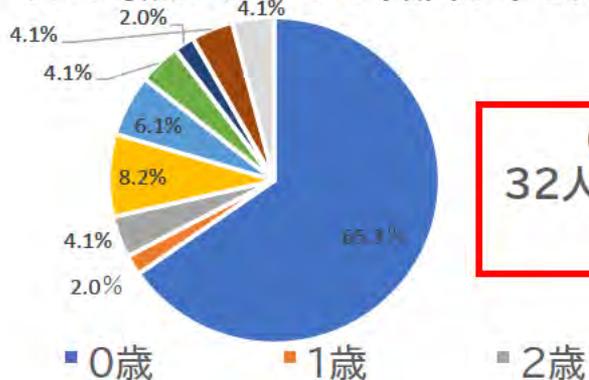
2023(令和5)年実施

「横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた利用ニーズ把握のための調査」より作成

児童虐待の死亡事例の推移



死亡時点の子どもの年齢(心中以外の虐待)



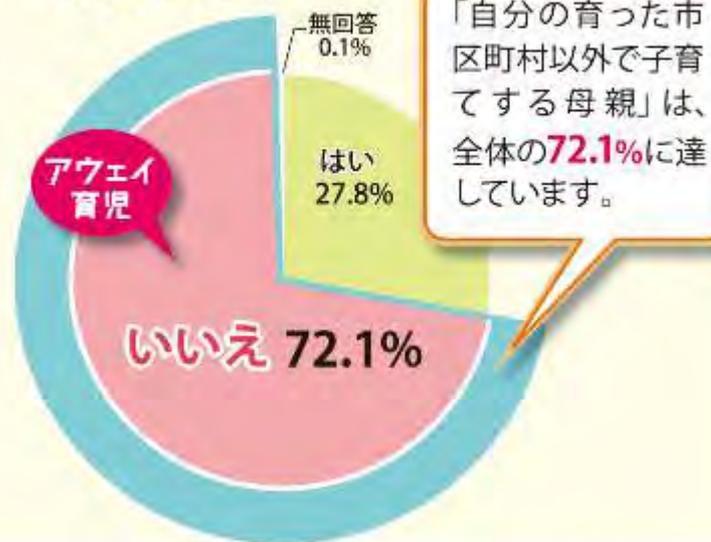
0歳児
32人(65.3%)

- 年齢別でみると、
 - ・ **0歳児**が最も多く(令和2年度心中以外の虐待死 **65.3%**)、そのうち月齢0か月児の死亡は50.0%であった。
 - ・ **2歳児以下**の割合は**約7割**(71.4%)を占めている。

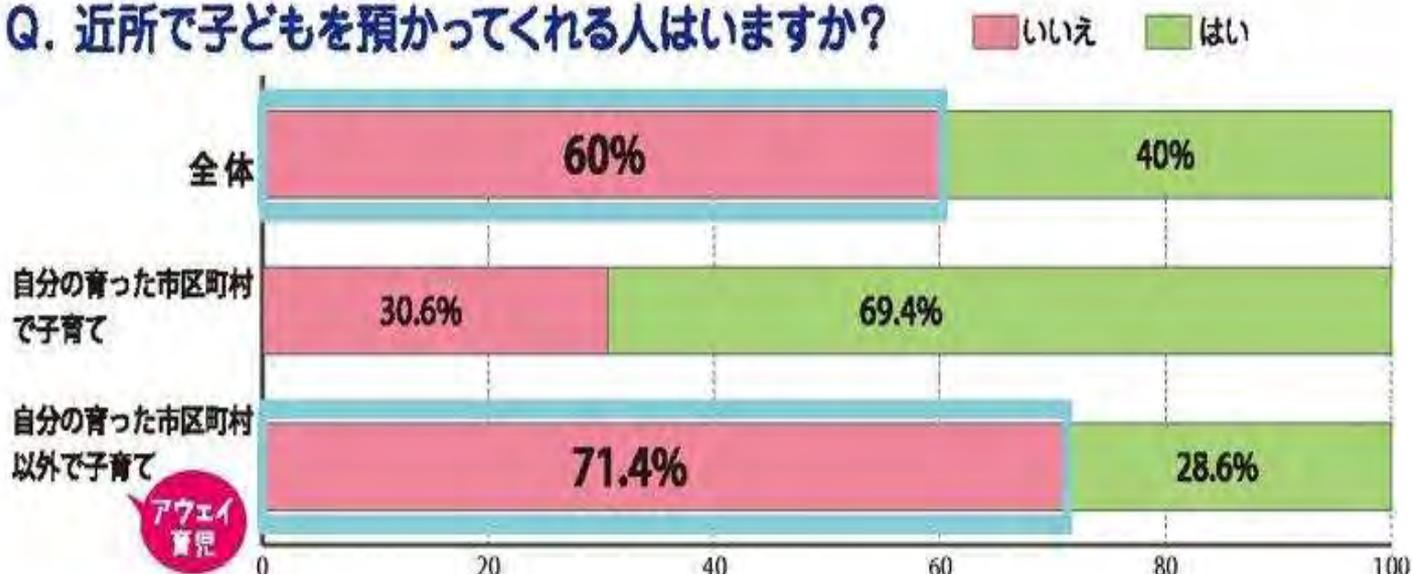
地域子育て支援拠点における「つながり」に関する調査研究

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会「地域子育て支援拠点事業に関するアンケート調査2015・2016」より作成
 回答:172団体、利用者1,175人

Q. あなたが育った市区町村で、現在子育てをしていますか？



Q. 近所で子どもを預かってくれる人はいますか？

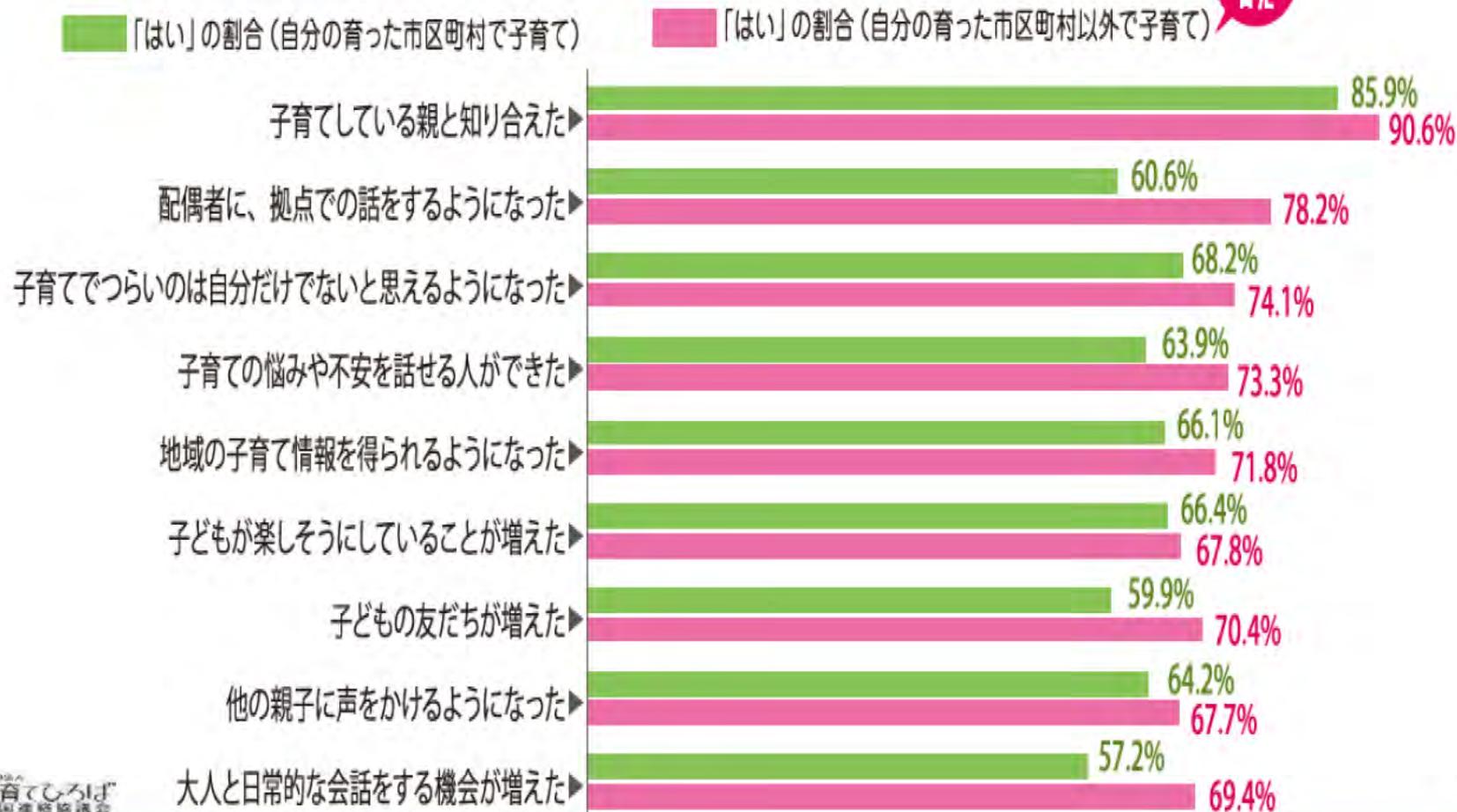


地域子育て支援拠点における「つながり」に関する調査研究事業

「地域子育て支援拠点事業に関するアンケート調査 2015・2016」

Q. 地域子育て支援拠点を利用した後のあなたとあなたの子どもについて、得られたこと、変わったことなど、次の文章の中で少しでも当てはまることすべてに○をつけてください。

アウェイ
育児



アウェイ育児から生涯のつながりへ



自分が育った市区町村以外で子育てをしている母親たち。

知り合いのいない土地で母親が感じる孤立感、手助けが得にくい中での子育ての負担感。

日々、地域子育て支援拠点の支援者は、数多くの母親から切実な声を受け止めています。

自分の生まれ育ったまちから離れた場所での子育ては、物理的な手助けの不足にとどまらず、心理的に孤立しているという状況をもたらし、「アウェイ感」を母親に与えているものと考えられます。
(ひろば全協理事 調査研究担当)



地域子育て支援拠点で生まれる「つながり」とは、親子が自己肯定感を育み 家庭を超えた広がりを持ち 地域社会の一員として 生涯にわたり 安心と信頼に基づくあたたかい関係性の連鎖を自ら紡ぎだす一歩である

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会

子育ての未来を ともに創ろう

地域子育て支援拠点(子育てひろば)が全国に広がっています。
孤立せず、安心してこどもを育てるために、地域とつながり、こどもと家庭に寄り添う子育てひろば。
その価値を社会に発信し、質の向上やネットワークづくりをすすめます。



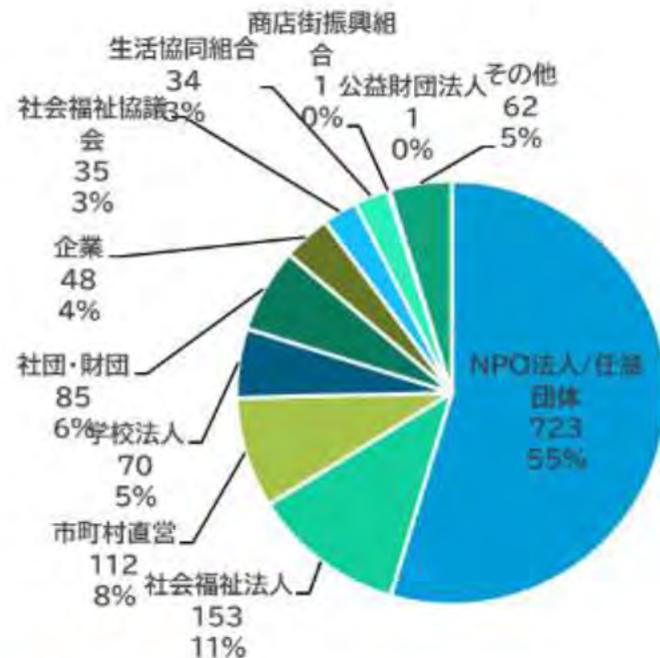
講座のプログラム開発
全国規模・市町村単位
での研修



会員総数:1484会員 (2024年10月25日付)

団体会員:1324

個人会員: 160



プレママ・プレパパ応援プロジェクト

拠点だからこそできる切れ目ない支援を実践する応援プロジェクト

主に0～3歳の親子を対象に、プレママ・プレパパに拠点のことを知ってもらい、出産後の利用につながるよう、母子保健や企業向けのポスター、チラシを作成。



「プレママ・プレパパ向けポスター」



「企業労務担当者向けリーフレット」



「プレママ・プレパパ向け拠点紹介動画」



子育てひろばの紹介動画
You-tubeで公開

「プレママ・プレパパ向け専用HP、拠点検索サイト」



◆プレママ・プレパパ向けの講座のためのワークショップ

2021～2024年度受講人数：のべ264名



妊娠期からの切れ目ない支援のために、地域子育て支援拠点で行う「プレママ・プレパパ向け講座」について考えるワークショップ。



◆予防型プログラム 研修

2021～2024年度受講人数：のべ671名

利用者参加型のグループワークを活用したプログラム実施のための研修。利用者が自分なりの子育てを見出し、肯定的な養育イメージが得るための実践力を身につけます。



● グループワークを通して、参加者が得られる効果

- ◆ 自分だけではないという共感を得る
→ 「私だけじゃなくて安心した」
- ◆ 他者の意見を聞くことで、自分の子育てを客観視できる
→ 「固定観念にしばられていたかも!」
- ◆ 入手してきた知識や情報を体験的に理解することができる
→ 「知識より体感、体験」「これが本質だった!」
- ◆ 多様な見方、意見を受容できる
→ 「そんな考え方もできるのか」
- ◆ 助け合いに発展する
→ 「私より大変そう、何か応援できないかな」
「私も助けてもらおう」

完璧な
子育てな
んてない

私だけじゃなくて
安心した

固定観念に
しばられていたかも

そんな考え方も
できるのか

ほどほど
の母親で
よい



里帰りの状況に関する5か年比較

(横浜市港北区)

調査概要： 調査対象：港北区4カ月児健診受診家庭 * 港北区地域子育て支援拠点どろっぷと港北区役所が協働で実施

令和1年5~6月	配布数：400	回収数：236	(回収率59.0%)	令和4年10~11月	配布数：472	回収数：328	(回収率69.5%)
令和2年10~11月	配布数：400	回収数：368	(回収率92%)	令和5年10~11月	配布数：400	回収数：310	(回収率77.5%)
令和3年10~11月	配布数：225	回収数：190	(回収率84.4%)				



©港北区ミズキー

- 里帰り出産
- 里帰りなし・手伝いあり(一定期間)
- 里帰りなし・手伝いあり(必要な時)
- 里帰りなし・夫婦のみ
- その他

港北区地域子育て支援拠点



コロナ
影響前



コロナ
後



中学生と赤ちゃんとの「ふれあい体験授業」



大綱中学校2年生を
対象とした家庭科の
授業「ふれあい体験
授業」。

認定NPO法人
びーのびーのが運
営する港北区地域
子育て支援拠点ど
ろっぴと大綱中が
共催。

今回で7年目。

多世代のかかわりが「寛容さ」をひろげる



DOORS ボランティア募集

DOORS

♥どろっぴでボランティア

無償

● Sボランティア

子どもと遊ぶ・お話し相手・靴の手入れ・演奏・読み聞かせ・調理・お仕事・DIY など、できることを自分のペースで S=スーパー、スペシャル、すてき 年齢制限なし

● 学生ボランティア

子どもとのふれあい、遊び、お世話など 大きくなった元利用者のみんなもきてください

● だろっぴ「monaka」

● だろっぴサテライト「MOMO」

利用者のボランティア活動グループ、定期的な会合を持ち、ひろばに必要な環境を提案・作成や、イベントを企画・運営

● だろっぴ

だろっぴサテライトを利用するパパたちの集まり ゆったりしたおしゃべりで情報交換やイベント、毎月開催

● こうほくnetほいっぴ

もっと子育てしやすくなる形を考え作っていく、港北区の子育て当事者グループ

だろっぴ 045-540-7420

サテライト 045-633-1078

問い合わせフォーム URL

<https://business.form-mailer.jp/fms/30a04430121366>



👶子どもを預かる

有償

● 子育てサポートシステム

習い事送迎、リフレッシュのためなどの預かり
対象：生後57日～小学校6年生
子育てサポートシステム事務局
港北区支部 045-547-6422



● 保育ボランティア「おんぶにだっこ」

だろっぴ/だろっぴサテライトで開催する講座の保育や見守り
対象：だろっぴ/サテライト利用者(未就学児)
だろっぴ 045-540-7420/サテライト 045-633-1078

● 地域訓練会保育ボランティア

園がいのある子どもの訓練会・サークルにて、親ミーティング中の保育や、活動の準備、見守り
だろっぴ 045-540-7420/サテライト 045-633-1078

👶産前産後の家庭をケア

有償

● 産前産後ヘルパー派遣事業

産前産後の家庭で、家事(食事の準備・片付け、洗濯、掃除、買物)・育児(おむつ交換、沐浴介助、送迎補助)の支援
認定 NPO 法人びーのびーの
045-633-1123
helpoer@bi-no.org



無償のボランティア活動実績(令和5年度)
一般ボランティア のべ2,313人
学生ボランティア のべ1,413人

👥コミュニティに加わる

ネットワーク

● code for kohoku

港北区オープンデータを活用した子育てプロジェクトの活動から新生した IT ボランティアによる自主活動グループ
code for kohoku: okpykohama2016@gmail.com

● Now+ (ナウプラス)

子育て世代のコミュニティ、今の生活(now)に少しでも何かをしたい思いで集まった人たち
Now+事務局 nowplus.kohoku@gmail.com

● 港福一夜城

港北区にゆかりのある有志が意見交換や情報共有を来歳
港福城プロジェクト TEAMSASUKE Kikaku@bi-no.org

● ラシク 045

イキイキと暮らせる都市を作る目的で元気に自由に面白く議論する
一般社団法人ラシク045 rashiku@gmail.com



👉寄付でつながる

● 認定 NPO 法人びーのびーの

だろっぴ/だろっぴサテライト運営法人
地域とのつながりによる「みんな子育て」の
実現に向けて挑戦し続けています
045-540-7422



お住まいの地区の自治会・町内会への加入、お子さんが在籍する小学校・中学校での PTA など、地域でも関わりをほぐみ、活動する場があります

子育てのスタートを孤立させない 次世代に、自信もって伝えていきたい

親子のひろばとの出会いは、大学でやりたいことを見失ってしまった私にとって、新しい刺激となりとても貴重な体験となりました。

ちいさな子どもたちと時間を共にする中で、大人になって忘れかけてしまった好奇心や、押し殺してしまうようになった喜怒哀楽が自分自身に必要なものであると実感しました。

ママさん方と話をすることが出来たおかげで、子育てがどれだけ人生を変えるのか、子どもが運んでくれる幸せを教えてもらうことができました。

